

A Study of Music Education at Training Schools for Nursery and Kindergarten Teachers No.2 : Through the Practice of a Stage Performance at a Junior College Festival

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牧野, 利子 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/736

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



保育者養成課程の音楽指導を考える No.2

— 舞台発表の実践を通して —

牧野利子

はじめに

本研究は、保育者養成課程の音楽指導のあり方を、川口短大における学園祭の舞台発表の実践から考察するものである。

幼稚園や保育所などでは、お誕生会をはじめとして毎月のように行事が催される。その際、必ずみんなで歌を歌ったり楽器を鳴らしたり、時には踊ったりして、なにがしかの音楽活動が伴うものである。音楽はみんなの心を一つにし、会の楽しさを倍増してくれる。行事において音楽の果たす役割は大きいのである。子どもたちを音楽表現させる側に立つ保育者は、自ら音楽表現する経験が豊富なことが望まれる。本物の舞台であれば、なお良い。前任校では、市のホールを借りて全校あげての表現発表会を催し、筆者もその活動に携わった。舞台発表の経験を通して学生の音楽能力は高まり、人間的にも成長するのである（日本学校音楽教育実践学会の第12回全国大会にて発表）。

今年度2期生を迎えた川口短大こども学科では、併設校である埼玉学園大学と合同の学園祭を開催していて、毎年キャンパス内に野外ステージが設置される。専門の芸能プロダクションに依頼しているため、かなり本格的な舞台であり、照明や音響も専門家が担当する。学生に本物の舞台経験をさせたいと考えていた筆者にとって、これは願ってもない格好の機会である。この舞台を使用して、こども学科一年全員による音楽発表を行なった。

本研究はこの舞台発表に向けての指導過程を振り返り、保育者養成校の音楽指導の一環としての舞台発表の有効性を検討するものである。

I 舞台発表の概要

1. 授業について

(1) 授業としての取り組みとしたこと

学園祭そのものは自由参加の行事であるため、全員参加の拘束性は無い。しかし、筆者は保育

者志望の学生全員にこの舞台発表を経験させたいと考え、授業の一環として取り組むこととした。

また、やがて保育者として現場に立つものにとって、この取り組みは貴重な経験となるであろうから、学生の立場だけでなく子どもを指導する側として（保育者としての）視点で教員の指導過程を注視するようにアドバイスした。

(2) 授業概要

実践校 川口短期大学

授業名 保育内容（表現・音楽）

対象 こども学科1年145名（2クラス分50名で3コマ行なう方法）

実施期間 平成21年後期授業の前5回

授業者 笠井かほる 牧野利子

(3) 授業のねらい

全15回の授業のなかで、はじめから舞台発表を予定に入れていたため、シラバスにも明文化しておいた（関係箇所はわかりやすくするため太字にした）。

平成21年度シラバスより

<p>授業目標</p> <p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の示す領域『表現』の中の、音楽的な表現についての理論的な理解と、その指導法の修得を目的とする。乳幼児の感性を育み、多様な音楽表現を引き出させるためには、保育者自らの音楽表現力が幅広く豊かであることが望ましい。人間と音楽、幼児と音楽の関係を脳科学の研究などを参考にして理論的に考察しながら、学生自らによる模擬授業や舞台発表の実践を通して、保育者として必要な音楽表現能力を培う。音楽する喜びが、全身にあふれるような保育者に育ってもらいたい。</p>
<p>授業概要</p> <p>一クラスを二分して、下記の内容を2名の教員が別々の教室で同時進行の形で行う。片方の組は、ABの内容が逆になる。音楽表現の理論を講義形式で受け、実技のほうはML教室と多目的ルームを単元に合わせて使い分けて行う。舞台発表のための合同練習も適宜行い、子どもに演じさせる際の方法も、この実践を通して学ぶ。</p>

(4) 授業内容

	実施日	方法	内容
1	9月30日	合同	授業説明，学園祭の大まかな練習
2	10月7日	クラス別	合唱と器楽に別れ，途中で交代
3	10月14日	クラス別	合唱と器楽に別れ，途中で交代
4	10月21日	合同	2クラス合同で通し稽古
5	10月28日	合同	学園祭のビデオを鑑賞，評価アンケート記入

授業としては発表前に4回しかなく、授業内容をわかりやすくするため、毎時間の予定を細かく書いて、プリントして渡した(資料1)。

(5) 演奏曲目

1. 「手のひらを太陽に」2部合唱	全員	手話付き
2. 「心をあわせて」	4組・1組	基本リズムのアンサンブル
3. 「寄せ太鼓」	3組・6組	お囃子
4. 「なべなべそこぬけ」	2組・5組	わらべ歌のお囃子風
5. 「ふれ太鼓」	有志	
6. 「手紙」斉唱	全員	クラス別のソロ者有り

2. 学園祭関連について

(1) 企画・本部との打ち合わせ

授業発表なので筆者が責任者となり、企画や打ち合わせなどすべて行なった。

(2) タイムスケジュール

本番へむけての授業外での活動、準備などはすべてプリントして、全員へ周知徹底をはかった。

野外ステージの設営・撤去作業は舞台発表する団体全員で行なうことになっていて、クラスごとに担当を割り振った。

II 指導に関して配慮や工夫したこと

1. 選曲と演奏方法について

(1) 音楽表現の内容が簡潔であり、かつ誰にでも楽しめそうな曲を選んだ

本校の学生はピアノ初心者が約半数おり、読譜力がまだ十分についておらず、譜面上難解そうな曲には拒否反応することが予測された。また、大人数を指導するには4回の授業では十分な指導が出来ないことを考慮し、なじみがあり歌いやすい曲にした。

「手のひらを太陽に」は誰でも知っている歌だが、保育の現場でも歌えるし、簡単な手話を付け、しかも若者が興味を持つようにゴスペル

こども学科 舞台発表予定表

2009.10.21 (水)

日 時	場所・該当者	内 容	備 考
10/21 (水) お昼休み	多目的ルーム	自由練習	
10/22 (木) 1限 お昼休み	アリーナ 1・3・4・6組 多目的ルーム	合唱練習・立ち位置確認 自由練習	
10/23 (金) 8:00 (9:00~12:00) 12:00	前日準備 4大玄関前 1・2・3組 アリーナ アリーナ 全員	点呼 ステージ機材降ろし ステージ組み立て 自由練習(各委員・担当者以外は 発声・笛・グループ練習など自由 に行なう) 立ち位置確認	軍手着用 動きやすい服装 靴 短時間で行なう
10/24 (土) 9:00 10:30 10:50 11:10~ 11:40	本番日 カフェテリア 全員 楽器移動 1・2・3組 ステージ横 全員スタンバイ 本番 本番終了 楽器移動 4・5・6組	集合・点呼・発声・休憩ぐし・立 ち位置確認 移動後、太鼓は台に乗せる	
10/25 (月) 午前	片付け 4大玄関前 4・5・6組	点呼 ステージ撤去・運搬 ステージ周辺の掃除など	軍手着用 動きやすい服装 靴

※安全第一で慎重に行動すること。
※前日準備・片付けに関しては学友会委員の指示に従うこと。
※欠席や不備の事項は速やかにクラス委員に報告すること。
※常に保存者としての観点で考察すること。

風にアレンジしたものにした。「手紙」はアンジェラ アキの作品で、全国合唱コンクールの課題曲になっていて、NHKの「みんなの歌」でも流れていた曲である。歌詞の内容が学生達の現在の心境にぴったりであろうと考え、共感を呼ぶのではないかと思いこの曲にした。曲は長いが斉唱であることと伴奏がアルペジオの連続で、興味を持った学生がいつか弾き歌いすることも可能ではないかと考えている。

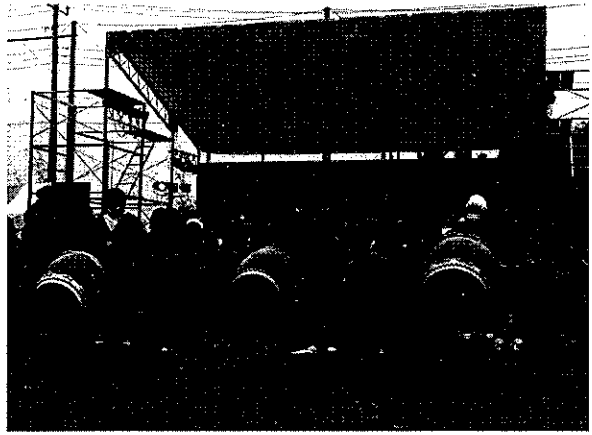


写真1 全員合唱「手のひらを太陽に」

(2) 音楽表現の方法が多面的であること

合奏に関して、大勢が合わせやすいことと基本のリズムがしっかり打てるようになることを考えて、基本の音符（全音符・2分音符・四分音符など）を順に打っていくものを筆者が合奏用にアレンジして、「心をあわせて」という題名にした。カノンにしたり、分担奏にしたりして、保育の現場でも使用できそうなアレンジにした。

楽譜1 「心をあわせて」の演奏内容

(3) 日本の伝統的な音楽を取り入れた

子どもたちがよく遊んでいる「なべなべそこぬけ」を篠笛でメロディを吹き、和太鼓とその他の打楽器で演奏するように筆者がアレンジした。子どもたちに合奏させる場合、つい既成の楽譜を使用するが、このように身近なわらべ歌を使えば、子どもたちにとってもわかりやすく、しかも楽しい合奏になることを理解させたいと考えてのこと。また、篠笛のほかに和太鼓なども使用して日本の伝統楽器の奏法も習得させたいと考えた。

楽譜2 「なべなべそこぬけ」の演奏内容

(4) 全員で演奏できること

拍を合わせることが可能なのは人間だけであるといわれている。一緒に歌ったり演奏することによって、人間の本能である集団欲が満たされるのだそうでもある。約150人が一緒に演奏する喜びを味わってもらいたくて、歌うことのみならず合奏でも出番でない人もラップの芯で拍打ちするようにした。

(5) ソロ（独奏・独唱）の部分を入れる

大勢で演奏する場合でも、ところどころにソロの部分を入れるとより演奏が立体的になるものである。「なべなべそこぬけ」の冒頭の部分は和太鼓で一人ひとり演奏するようにしたし、「手紙」ではクラスごとにソロの部分を作った。

2. 指導法について

(1) 演奏意欲を喚起するような働きかけをすること

教員が自ら演奏して学生の表現意欲を駆り立てるようにした。和太鼓や篠笛などはほとんどの学生が奏でたことがない。未知のことに関しては誰もが興味をもつものである。やってみたいと思わせるように、範奏・範唱の機会を多くした。

(2) 2名の教員の効果的な配置

この授業はもともと2名の教員が2箇所に分かれて、1クラスずつを指導する体制になっている。合同の時は牧野がMTとして指導し、クラス別の時は歌唱指導は笠井・合奏指導は牧野として、限られた指導時間が有効に機能するよう工夫した。毎時間、指導内容の検討を行い、その都度より良い方法を考えながら進めた。

(3) プリント類で周知徹底を図った

毎時間の指導内容、全体のタイムスケジュールなどをプリントで知らせた。いくら口頭で言っても、直ぐに理解できたり、覚えていられたりするものではない。後で確認できるように、その都度プリントして渡した。

また、当日の曲目の立ち位置も図表化し、分かりやすくした（資料2）。

(4) 保育者としての意識で臨むよう促した

保育の現場では、常に日常保育の内容に関して企画から評価まですべて一人ではなければならない。特に今回のような行事に関しては、自分が指導する立場であったらどうするか、との保育

者としての視点で取り組むよう働きかけたり問いかけたりした。

(5) 有志の演目を設定した

本当に興味をもった学生のために有志の演奏時間を設定した。限られた時間の中で全員を指導するには演目に限界がある。しかし、意欲をもった学生に関しては、自由に参加させる機会を用意した。曲目は末永克行作詞の「ふれ太鼓」とし、個人が活かされる様に筆者が編曲した。後打ち（アフタクト）が多く、合わせるのにかなり難しいが、合えばカッコ良い曲でもある。

(6) 自分達の演奏の評価を後日するために、ビデオ撮影をした

演奏するだけでなく、当日の様子をビデオ撮影し、後日それを見て評価する機会をもった。演奏する方は自分の演奏することだけで精一杯である。しかし、ビデオで振り返ることは大変有効と考え、他の教員の協力を得て2台のビデオで撮影した。

5回目の授業時に学生に観せ、アンケート用紙に記述させた（資料3）。三脚で据え置いたものと、教員が歩きながら細部まで撮影したものの2本である。個々の反省を促したのは、2本目のものであった。歌詞を覚えていない、曲中も話している、キョロキョロして姿勢が悪いなど如実に表われていた。

III 結果

舞台発表は無事終了し、5回目の授業にてアンケートに書いたことや教員の各授業の観察、観客の反応などから下記のことを明らかになった（資料4）。

① 舞台発表によって音楽の楽しさを経験した

高校の時に音楽を選択しなかったり、音楽関係の部活に入っていないと音楽経験の少ないものにとっても、今回の経験は心から楽しかったようである。

② 企画・指導する側の視点で取り組んだ

演奏会をするのにハプニングはつきものである。企画するところから、今回の舞台発表に関して、次々に起こる問題について常に授業で報告し、自分だったらどう解決するか考えさせた。その問いかけが良かったのか、学生達はよく観察し、自分なりに考えたようである。

③ 能動的に練習する姿が見られた

篠笛は26名取り組んだが、みな大変よく練習し、レッ



写真2 篠笛「寄せ太鼓」

スン室で集まって自主練習したり、家へ持ち帰り、沢山練習したようである。また、和太鼓のリズムを覚えるのに皆でひざをたたいたりして教えあっているのも確認している。

④ 有志の演奏が皆を感動させた

これはアンケートにほぼ全員が書いているのだが、大変感動したようである。

これに関しては後述するが、筆者もこの有志の練習に関して、びっくりさせられることが起きた。人数が足りず下打ちを頼んだ学生 A が突然「和太鼓をたたきたい」と言い出したのである。三日前のことであつたが、本人が意欲があれば何とか間に合うであろうと思い承諾した。なんと A は当日他の学生に混じり堂々と演奏したのである。いったい彼の中で何が起きたのであろうか。



写真3 有志の演奏「ふれ太鼓」

IV 考察

今回の取り組みから、舞台発表は保育者養成課程では有効性が高いといえよう。①限られた時間の中で音楽表現する楽しさを十分経験した、②保育者の視点で取り組んだ、③感動経験の場となった。

特に有志の取り組みについて考えてみよう。

もともと有志の出番を設定したが、特別大きな働きかけはこちらからはしなかった。やりたい人がいなければこのプログラムは省いても良いとも思っていた。実際に筆者が指導したのは、ごくわずかな時間であったのである。しかも全員がそろって合わせたのは、果たして何分であつただろう。しかし、出来上がった演奏は誰おも感動させるものとなつたのである。いったい何が彼らを駆り立てたのであろう。しかも A は三日前に下打ちを合わせに初めて現れたところで前述のように申し出たのである。

これはミラーニューロンの働きによるものではなからうか。近年脳科学の研究の進歩によって、われわれの脳の中に人の行いを見て、そっくり模倣する細胞があることが発見された。しかも、その模倣でその人の感情まで理解できるのである。音楽はわれわれの脳の深部に影響を与えるのだそうだが、意欲を駆り立てるような刺激を与えれば、ミラーニューロンが活発になり、まねるのである。授業1限目で教員の演奏に刺激を受け、何名かの有志希望者が出たいという意欲を持ち、その友人達の様子をみた A が自分も和太鼓を演奏したいと願い出た。そしてその思いが強いだけに2,3日で立派に演奏するまでに急成長したのは、すべてミラーニューロンの成せる技

ではなかろうか。

おそらくこの感動は学生達にも伝わり、長く記憶にとどめられるのではないかと思う。

子どもは目の前の人間のことを無条件にすべて受け入れ、まねる。それは無意識にまねるのである。ミラーニューロンは誕生してから直ぐに活発になり、形成される。保育の現場に立つものは、どんなこともまねされて良いように自己啓発を怠ってはならないであろうし、その保育者を養成する課程に携わるものは、ミラーニューロンを働かせるような指導を行わなければならないであろう。

音楽の習得はまず指導者の模倣から始まる。特に声楽などでは、声までそっくりになるのである。今回の実践から明らかになったことをふまえ、音楽と脳の関係についても今後研究を深めたいと考えている。

参考文献

- 小島律子・澤田篤子 (1998) 「音楽による表現の教育」 晃洋書房
ジャコモ・リゾラッティ他 柴田裕之訳 (2009) 「ミラーニューロン」 紀伊国屋書店
小泉英明編著 (2008) 「脳科学と芸術」 工作舎
マルコ・イアコポーニ 塩原道緒訳 (2009) 「ミラーニューロンの発見」 早川書房
茂木健一郎 (2007) 「感動する脳」 PHP 研究所
小泉英明 (2005) 「脳は出会いで育つ」 青灯社
ジュスリン&スロボダ 大串健吾ほか訳 (2008) 「音楽と感情の心理学」

(2009年12月17日提出)

〈資料1〉

保育内容 (表現・音楽)

— 保育者として必要な音楽表現の理論と実践 —

本時の予定 No.1 2009.9.30

1. 授業説明
2. 学園祭の練習
 - ・合唱 歌唱表現の基礎 (本 p.121~)
 - 「手のひらを太陽に」 2部合唱, ゴスペル風, 振り付き
 - 「手紙」 斉唱 弾き歌いの楽しみ
 - ・合奏 器楽表現の基礎
 - 「心をあわせて」 基本リズムのアンサンブル (カノン・分担奏)
 - 「寄せ太鼓」 和太鼓・篠笛
 - 「なべなべそこぬけ」 和太鼓・篠笛
 - 「ふれ太鼓」 希望者のみ (募集中)

10月23日(金) 準備・リハーサル
 10月24日(土) 本番 11:10~11:40
 10月26日(月) 片付け

* 楽器演奏が出来る人 募集中

3. 次週の予定
 クラス別で行なう
 (合唱練習 201室・合奏練習 多目的ルーム)

保育内容 (表現・音楽)

— 保育者として必要な音楽表現の理論と実践 —

本時の予定 No.2 2009.10.7

1. 舞台発表について
 - (1) 保育者側の視点で取り組む 企画・練習・本番・評価
 - (2) 音楽表現の喜びを経験する (本 p.1~)
 - (3) とともに教え合う
2. 学園祭の練習
 - (1) 201室 合唱 歌唱表現の基礎 (本 p.23~)
 - ・「手のひらを太陽に」 2部合唱
 - パート決め・高音部の音取り・歌詞を覚える
 - ・「手紙」 斉唱
 - 1クラス4名のソロ・メロディーを覚える
 - (2) 多目的ルーム 合奏 器楽表現の基礎 (本 p.35~)
 - 曲の練習とパート決め
 - ① 1組・4組「心をあわせて」基本リズムのアンサンブル
 鉦1・大太鼓7・締め太鼓7 (斉奏・カノン・分担奏・斉奏)
 - ② 3組・6組「寄せ太鼓」
 鉦1・大太鼓7・締め太鼓7・笛4
 - ③ 2組・5組「なべなべそこぬけ」
 鉦1・大太鼓7・締め太鼓7・笛4
 - ④ 有志「ふれ太鼓」希望者のみ (募集中)

自主練習 (多目的ルーム)
 月~木 昼休み
 火 1限・5限
 * 楽器は丁寧に扱うこと
 * 室内は飲食厳禁

3. 次週の予定
 クラス別で行なう

保育内容 (表現・音楽)

— 保育者として必要な音楽表現の理論と実践 —

本時の予定 No.3 2009.10.14

1. 舞台発表について
 - (1) 心構え 良き演奏のための練り直し (臨機応変)
 - (2) パートの決定・立ち位置
 - (3) 衣装・楽器類の確認
2. 学園祭の練習
 - (1) 201室 合唱 歌唱表現の基礎
 - ・「手のひらを太陽に」 2部合唱
 - ・「手紙」 斉唱
 - (2) 多目的ルーム 合奏 器楽表現の基礎
 - 曲の練習・パート確認・立ち位置
 - ① 1組・4組「心をあわせて」
 (斉奏・カノン・分担奏・斉奏)
 - ② 3組・6組「寄せ太鼓」
 - ③ 2組・5組「なべなべそこぬけ」
 笛のみ→一人ずつ→合奏

自主練習 (多目的ルーム)
 月~木 昼休み
 火 1限・5限
 * 楽器は丁寧に扱うこと
 * 室内は飲食厳禁

3. 次週の予定
 合同で行う

* 配布資料はスクラップノートに貼りましょう

保育内容 (表現・音楽)

— 保育者として必要な音楽表現の理論と実践 —

本時の予定 No.4 2009.10.21

1. 舞台発表について
 - (1) 心構え 安全集一・落ち着いて対処 (怒らない)
 - (2) スケジュールの確認 別紙
2. 学園祭の練習 (合同)
 - (1) 「手のひらを太陽に」 2部合唱
 - ・「手紙」 斉唱 ソロパートの確認
 - (2) ① 1組・4組「心をあわせて」
 (斉奏・カノン・分担奏・斉奏) 各2回ずつ
 - ② 3組・6組「寄せ太鼓」
 - ③ 2組・5組「なべなべそこぬけ」
 笛のみ×2→一人ずつ→たた×16→斉奏×2→
 (笛)
 半分×4→4分の1×8以上→乱打→ドン
 (笛前半のみ) 笛 笛

3. 次週の予定
 合同
 舞台発表の評価

* 配布資料はスクラップノートに貼りましょう

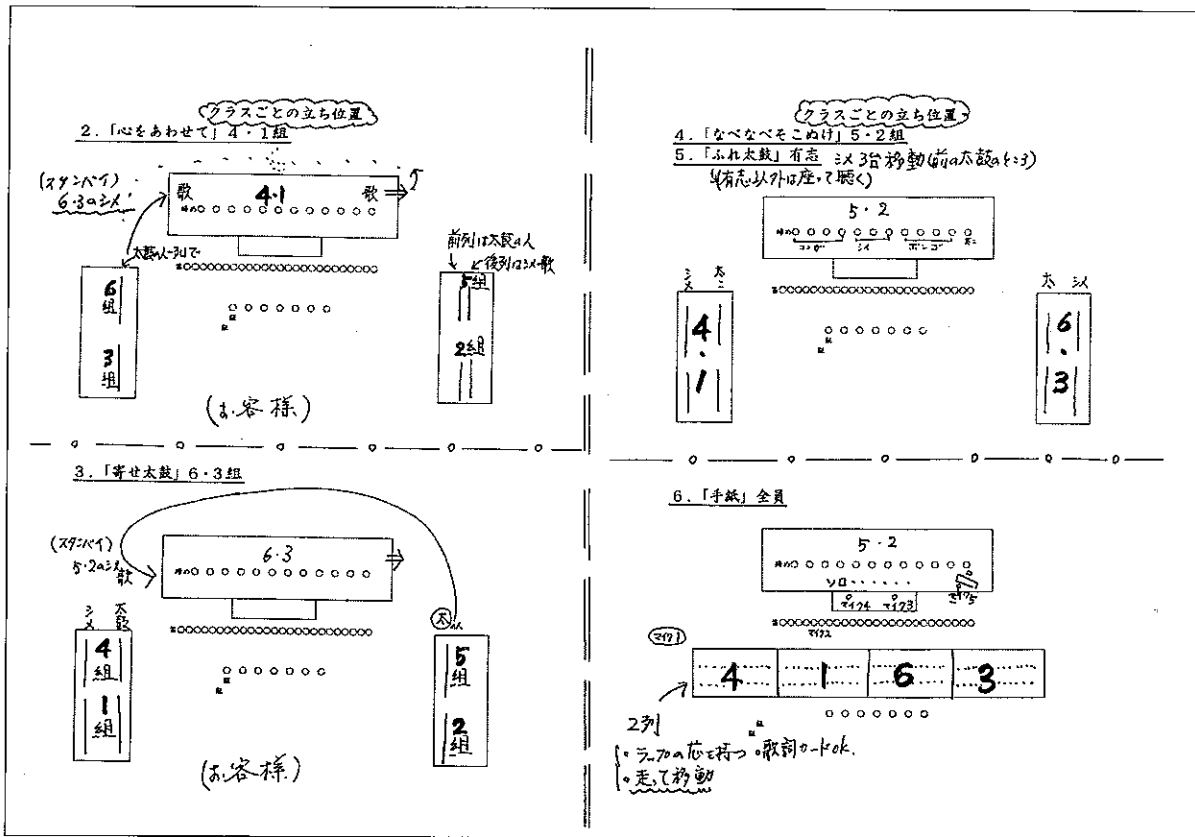
〈資料 2〉 舞台発表後のアンケート

合計 125 名

	良 い 点	反 省 点
II-1 「手のひらを太陽に」 全員合唱	手拍子がそろっていて一体感があった 観客が楽しくなるような歌になっていた 振り付けがあると歌も楽しそうに見えて効果的 2部合唱のハモリがきれいだった いきいきとした演奏で心に残った	振り付けを覚えていない人が目立った ソプラノを増やすとより良いバランスになる 動きを大きくわかりやすくした方が良い 恥ずかしがったり無表情の人が目立った
II-2 「心を合わせて」 1・4組	鉦の重要性がわかった 途中ずれても持ち直してよかった 大太鼓と締め太鼓のかけあいが良かった 練習の大切さを感じた カノンのかけあいがおもしろい	外でのリハーサルがあったら良かった 自身がなさそうに隣を見ている人がいた 迫力がなかった 繰り返しが多く単調なので長く感じた もっと手を大きく上げて太鼓をたたき
II-3 「寄せ太鼓」 3・6組	笛が揃っていて音色がきれいだった かけ声が大きく祭りの雰囲気が感じられた 太鼓と笛のバランスが良く、曲がまとまりがあった 準備が早くクラスの入替えがスムーズだった	私語や雑談が目立った 終わりのテンポが揃わなかったのが残念
II-4 「なべなべそこぬけ」 2・5組	ソロパートがあることで、責任感や集中力が育つ ソロの人は堂々と自信を持って演奏していた 強弱や緩急が使い分けられていて見ごたえがあった 曲のアレンジがわかりやすく変化に富んでいた 鉦、笛、太鼓のバランスが良い	生徒の準備や移動が遅い 落ち着きのない生徒がいた 鉦と太鼓のリズムがずれる所があった かけ声が小さかった 無表情の人がいた
II-5 「ふれ太鼓」 有志	人数が少ないのに、力強く息があって迫力があった 自分にもやる気を与えてくれるような引きつけられる演奏だった 姿勢やたたき方がきれいに揃っていて感動したやる気と練習の成果が感じられる演奏だった	なし
II-6 「手紙」 全員斉唱	ソロパートが綺麗に声が出ていた 心を込めて歌っているのが伝わって心に響いた 歌っている表情が明るくて良かった 150人での斉唱は貴重な場で、楽しかった	恥ずかしがらずに声を出すべき 歌ってない人がいて残念

III-1 舞台発表の意義について	人前で発表することの楽しさや、集団で一つのことを創り上げることの達成感を味わえた 協調性を養い、団結力が高まった 観客を引きつける発表をすることの大切さを実感した 舞台上での態度や姿勢など、自分を客観的に振り返る良い機会だった	
III-2 演奏曲目について	普段経験できない日本の伝統楽器に触れることができた アンサンブルや手話つき合唱など、バラエティに富んでいて良かった 有名な親しみのある曲で、子どもに教える時に参考になる	
III-3 指導方法・内容について	先生の指導を真剣に生徒が聞き、移動や整列など一人一人が自覚を持って臨むべきだった もっと練習時間があつたらよかった 自分が指導者の立場になった時に、子どもにどう教えたらよいか勉強になった わからない生徒や困っている生徒に、お互い教えあうべきだった	
III-4 発表を通して保育者として成長した点と今後の課	自らが楽しめない観客にも楽しさが伝わらないことがわかった 自分の役割に責任を持つことの重要性を感じた 人前で発表ことに対する緊張や恥ずかしさがなくなった 一生懸命でなければ最高の発表が出来ないことを学んだ 保育者として、歌ったり身体を動かして表現する楽しさが体感できた	
III-5 その他	反省ビデオを見ることで、客観的に自分達の立ち振る舞いを気づかされた 大勢で発表できる機会を作ってもらえてありがたいと思った 短期間の練習でこれだけの舞台ができたことを満足する一方で、もう少し練習し完成度をあげれたらと思う	

〈資料3〉 曲目ごとの立ち位置



〈資料4〉 アンケート用紙

舞台発表音終えて
組 番 名前 _____

I. 参加状況 ○出席 △遅刻・早退 ×欠席

参加日	出席	欠席理由	参加日	出席	欠席理由
本番 10/24			授業外 10/22 1限		
授業 9/29			前日準備 10/23 8:00		
10/7			体育館 10/23 12:00		
10/14			本番日 10/24 9:00		
1/21			片付け 10/26 8:30		

II. ビデオを観ての感想

1. 「手のひらを太陽に」 全員合唱
2. 「心を合わせて」 1・4組
3. 「寄せ太鼓」 3・6組
4. 「なべなべそこぬけ」 2・5組
5. 「ふれ太鼓」 有志

6. 「手紙」 全員斉唱

II. 評価 (保育者の視点で)

1. 今凶の舞台発表の意義について
2. 演奏曲目について
3. 指導方法・内容について
4. 発表を通して保育者として成長した点と今後の課題
5. その他 自由記述